



2019

愛媛大学工業会会誌

第33号



愛媛大学工業会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学工学部内
Tel/Fax 089-927-9702(ダイヤルイン)
E-mail: kogyokai@eu-kogyokai.jp
ホームページアドレス <http://www.eu-kogyokai.jp>

新居浜高等工業学校同窓会
新居浜工業専門学校同窓会
愛媛大学工学部同窓会
愛媛大学大学院工学研究科同窓会
愛媛大学大学院理工学研究科(工学系)同窓会

愛媛大学工業会会誌（第33号）目次

会長就任のご挨拶	工業会会長 柿木 一高（電47）	1
工学部長の挨拶		
次の10年に向けた工学系人材育成をめざして	工学部長 高橋 寛	2
定年退職に際して		
溶接に呼び寄せられて、愛媛へ	小原 昌弘	3
総会報告		
愛媛大学工業会総会報告（愛媛大学工学部創立80周年）	池内 直之（電62）	4
本部報告		6
役員一覧		11
編集委員会企画		
愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターが始動しました		
センター長 豊田 洋通		13
2019年7月に「工学部附属高機能材料センター」を設置しました		
センター長 小林 千悟		15
支部だより		
東京支部報告 2018年8月～2019年7月	鳥海 基忠（機54）	17
東海支部活動報告	兵頭 修（機46）	18
平成30年愛媛大学工業会近畿支部総会&懇親会の報告	渡邊 武晴（機42）	19
岡山支部報告	額田 信一（電52）	20
広島支部報告	河野 徹（土42）	21
高松支部活動報告	谷 喜文（院電53）	22
高知支部報告	中村 考男（鉦40）	23
平成30年度『第26回愛媛大学工業会愛媛支部総会』報告	木村 正樹（院機54）	24
テニス大会		
第40回工業会テニス大会報告	十河 基介（生機H4）	25
総会記念テニス大会（80周年）報告	十河 基介（生機H4）	26
ゴルフ大会		
総会記念ゴルフ大会（80周年）報告	渡邊 政富（土木H2）	27
クラス会報告		
電気工学科昭和39年卒クラス会	田中 章博（電39）	28
第15回電気工学科昭和40年卒クラス会	田中 秀穂（電40）	29
工業化学科昭和41年卒業同期会	本邑喜代一（工化41）	30
機械工学科昭和42年卒同期会報告～卒業後51年目の再会～	越智 保雄（機42）	31
生産機械工学科昭和44年卒業同級会	井上 要（生機44）	32
冶金参期会（冶金昭和45, 46, 47卒）広島報告	貞広 公良・三好 良一（冶46）	33
生産機械工学科（S42年入学, S46年卒業）同期会	小河内一雄・細田 耕司（生機46）	35
第1回「生機46会（昭和46年生産機械工学科入学者の会）」報告	喜多岡洋一（生機50）	36
機械・生産機械工学科昭和48年入学又は52年卒業クラス会	木村 正樹（院機54）	37
投 稿		
平成31年3月, 第17回「えざわ会」	岩丸 純芳（鉦37）	38
二宮翔会活動報告		
新時代に向けて	代表 武田 慧悟（機械工学科3回生）	41
学内報告		
海外研修報告および学生生活動援助費〈報告〉について		42
校友会		
愛媛大学校友会をご存じですか？		42
愛媛大学基金		
愛媛大学基金平成30年度決算報告について	愛媛大学長 大橋 裕一	43
学内近況		44
訃 報		45
寄付金のお願い		46

会長就任のご挨拶



愛媛大学工業会会長

柿木 一高
(電47)

暑い毎日が続いておりますが、工業会会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。本会報が皆様のお手元に届く頃には少しは凌ぎやすくなっていることと存じます。

工業会会員の皆様には、日頃より、本会の運営にご支援・ご協力をいただきまことにありがとうございます。

今年は、工学部創立80周年の記念すべき年に当たり、先般5月19日に5年に一度の工業会総会が開催されました。

当日は、田中副学長をはじめ、多くのご来賓の皆様方にご出席をいただき、ご祝辞を賜るなどありがとうございました。

また、会員の皆様には遠路からのご参加も含めて多くの方々にご参加いただきましたこと心よりお礼申し上げます。

記念講演では、(株)ABEJAの岩田様（工業会会員）から「AI・機械学習がもたらす世界」と題した最先端技術をご紹介いただき、その後の有意義な総会、そして盛大で楽しい祝賀会と、80周年の記念に相応しく盛大に執り行うことができました。

総会の準備に携わられました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

今総会におきまして、皆様のご賛同をいただき会長の重責をお引き受けすることになり、身の引き締まる思いでございます。このような重責が務まるかどうか未だに自問自答しているところですが、お引き受けした以上、微力ながら工業会のますますの発展に全力で邁進していく所存です。

ところで、今年は愛媛大学におきましても開学70周年であり、本年度4月から理学部、工学部の改組が行われました。工学部では、従来の6学科体制から、1学科（工学科）9コースの体制に改組されました。

折しも、元号も「平成」から「令和」に変わり、正にいろいろな意味で節目の年であります。

そういう意味でも今年は工業会にとりましても今後を見通す上で大切な年であると認識しています。今後、さらに工業会を発展させていくためには様々な課題も解決していかなければなりません。

工業会は、会員相互の親睦と人格の向上を図り、愛媛大学、愛媛大学工学部及び愛媛大学大学院理工学研究科（工学系）の隆昌と工業の発展に寄与することを目的とする組織であり、この目的に沿った「事業運営」、「支部活動」、「大学運営への参画」などを積極的に進めていく必要があります。

そのためには副会長、理事長をはじめ役員の皆様、そして何より会員の皆様のご支援、ご協力がなければ何事も成し遂げることはできません。

会員の皆様からの忌憚のないご意見やアドバイスを賜りながら、常に前進できる工業会を目指して参りたいと思っております。

工業会会員の皆様には、これまで以上にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、愛媛大学、そして工学部、理工学研究科（工学系）、また校友会および各学部同窓会の今後ますますのご発展と、工業会会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

工学部長の挨拶

次の10年に向けた工学系人材育成をめざして



愛媛大学工業会名誉会長（愛媛大学工学部長）

高橋 寛

今年は、愛媛大学工業会創立80周年を迎えますことに心からお祝い申し上げます。平素より、愛媛大学

工業会会員の皆様におかれましては、愛媛大学工学部に対して多大なるご支援を賜りまして心より御礼申し上げます。

昨年4月に工学部長を拝命し、今年の4月には無事に新しい工学部工学科に500名あまりの学生を新入生として迎えることができました。新しい組織としての教育体制の確立に工学部の教職員と協力して日々精進しております。

さて、政府をはじめ産業界からは、世界が不安定、不確実、複雑、曖昧な社会に変遷し、これまでの社会の枠組みでは限界が生じているため、「ひとを中心とした」新たな価値を見出すために新たな社会として「Society5.0」を構築することが日本の将来を決めることになると提言されています。今年70周年を迎える工学部においても、次の10年に向けた工学系人材の育成の在り方を考えなければなりません。

工学部の将来構想といたしましては、広く地域・社会からの要請を自覚しながら、

- 1) 社会人を含む工学系人材の育成を強化すること
- 2) 研究の成果を社会実装まで発展させることをめざしています。

具体的な方策としては、今年度4月から工学部を1学科として、「機械工学コース」、「知能システム学コース」、「電気電子工学コース」、「コンピュータ科学コース」、「応用情報工学コース」、「材料デザイン工学コース」、「化学・生命科学コース」、「社会基盤工学コース」、および「社会デザインコース」の9コースに改組しました。特に、1年生に対しては工学の基礎的な科目を共通で必修化しました。学生は1年生の間、学びながら自身の興味と適性を考え

ながら、2年生で教育コースを決定します。また、3年生では課題解決型の演習(Project Based Learning)を必修化しました。専門的教育プログラムは、これまでの「ものづくり」を志向した基盤工学分野と「ことづくり」や「サービスづくり」を志向した新工学分野に分けて特徴をもつことによって、社会からの多様な要請や学生の多様な学びの要求に応えることができます。

昨年度からの新しい工学部の活動としては、地域の産業界・地域のステークホルダーと大学・工学部を橋渡し、愛媛県並びに四国地域の様々な産業から要請される各種課題に対応するために、工学の重要分野に対する工学部附属センター群の設置を開始しました。具体的には、今治地域の造船業、船用業からの要請を受けて、学部学生に船舶・海洋分野の基礎的な教育を授けるために、「工学部附属船舶・海洋工学センター」を昨年6月に設置しました。さらに、今年の7月には、東予・中予地域の素材関連企業からの要請を受けて、今後の地域産業をさらに活気づける次世代の製品開発のための共同研究および高度な人材育成のために、「工学部附属高機能材料センター」を設置しました。今後も構成員のこれまでの活躍を反映しながら、地域の人材育成並びに地域産業の機能を強化するために各種の工学部附属センターの設置も計画しています。

工学部の次の10年の進展のために、オール工学で課題解決にのぞんでいきます。オール工学には、工学部OBである皆様方にもぜひ加わって頂き、これまで以上に強い関係を築くことができると念じております。

最後になりますが、愛媛大学工業会会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念するとともに、新たな工学部の取組みに対しまして、一層のご理解ご協力の程お願い申し上げます。

溶接に呼び寄せられて、愛媛へ



大学に赴任したのは、平成24年の正月明けでした。それまでは、新日本製鐵(株) (現・日本製鐵(株)) に31年間、その

後、日鐵テクニクス(株) (現・日鉄テクノロジー(株)) に3年間の計34年間、企業に勤務してきましたが、この日から大学教員として新たな生活をスタートすることになりました。

愛媛大学に赴任することになったきっかけは、愛媛大学工学部に溶接技術を研究する講座を復興させたいという地元企業の願いによるものでした。溶接・接合技術は、船舶、橋梁、圧力容器などの“もの造り”に必要な不可欠な要素技術であることから、この地域における溶接分野へのニーズは高く、冶金学科当時の昭和43年には、溶接を専門とする講座が5番目の講座として設置されています。それが時を経て、冶金学科、金属工学科、材料工学科、機能材料工学科へと変遷していく中で、平成19年から教授・准教授が相次いで退官され、それ以降は年配の助教一人が残る状態でありました。この様な状況を憂慮した地元産業界の有志が集まり、学長宛に、溶接技術研究に携わる指導者の招聘ならびに講座の再開・継続を求める要望書が提出されました。これを受けて、公募が始まったわけです。

初めてこの公募の話を知った時、学生時代に読んだ岡田實先生(元大阪大学総長)の著書『閃光』を思い出しました。岡田先生は大阪大学冶金学科に溶接工学講座を立上げ、その後、昭和19年には溶接工学科を設立された溶接研究の祖ですが、『閃光』には溶接技術の発展なくして日本の産業の発展はないとの信念と、それにかける熱き想いが綴られておりました。私も溶接工学科で学んだ学生として、役不足ではありますが四国の産業界に何らかの貢献ができるのであれば、少しは岡田先生の想いを引き継げるのではないかと思ったのが応募のきっかけでした。また、企業で管理職となって、研究から

理工学研究科機能材料工学コース

小原昌弘

はしばらく離れていたこともあり、もう一度、自らの手で新しい研究をやってみたいという気持ちになりました。

溶接技術は、多くの生産現場で様々な溶接方法が実用化されており、一見成熟した技術の様に思われがちですが、実際には最近の周辺技術の進歩によって大きく様変わりしてきています。特に溶接に用いる電源は今世紀に入った頃から、インバータ化、デジタル制御化が大きく進み、溶接現象を意図的に制御することも可能になってきています。最も広く産業界で用いられているアーク溶接の分野で、これをうまく活用すれば高品質化、高能率化などの様々な面で、新たな可能性を切り拓いていけるのではないかという想いで、研究開発を行ってきました。7年という短い期間ではありましたが、学生らと共に色々なアイデアを試せた楽しい研究生活でありました。企業との共同研究や、溶接協会・溶接学会などの公的な役割を通して、地元産業界の皆様にも少しはお役に立てたものと思っております。私自身は退官しましたが、地域から継続が望まれている溶接・接合技術の研究は、水口隆准教授が引き続き進めて下さっております。

昨年6月に、四国を代表する産業である造船産業との連携を強化することを目的として、「船舶海洋工学センター」が工学部の附属組織として発足しました。30万トン級の大型タンカーでは、総溶接長さが東京-大阪間に匹敵する600kmにも及ぶと言われております様に、溶接は船舶建造の要の生産技術です。溶接に関連する諸課題への対応など、まだまだ造船産業に貢献できることがあると思います。4月からセンター付きとなって、いましばらく大学に籍を置かせていただくことになりました。

最後になりましたが、これまでお世話になりました皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

総会報告

愛媛大学工業会総会報告 (愛媛大学工学部創立80周年)

工業会理事長 池内直之(電62)

令和元年5月19日(日)「道後大和屋本店」において愛媛大学工業会総会が開催されました。今年は工学部創立80周年に当たり、愛媛大学の田中寿郎副学長をはじめ、本会の名誉会長である高橋寛工学部長ほかご来賓、歴代の工学部長の方々にご臨席を賜り、工業会会員あわせて総勢85名が集いました。また、総会前日にはゴルフ大会、テニス大会が開かれました。

■講演会

(株)ABEJA(アベージャ)のPlatform Business Leaderとして、今最も注目されているAI技術の中核であるデータプランニングについての研究開発に従事されている岩田匠氏(平成26年愛媛大学大学院工学研究科修士課程電子情報工学専攻修了)に『AI・機械学習がもたらす世界』と題して、ご講演をいただきました。



■総会

総会は11時から理事長の開会の言葉で始まりました。

武田会長のご挨拶、物故者への黙禱の後、ご来賓を代表して本会の名誉会長である高橋寛工学部長のご祝辞をいただきました。

議事に先立って、工業会の発展にご尽力された方々への表彰が行われました。

●功労者表彰(6名)

前 茨城支部長 中村喜久男様(機械38)



前 広島支部長 鶴 素直様(電気40)
前 東海支部長 大吉 芳城様(機械42)
前 岡山支部長 石井 正男様(機械43)
元 愛媛支部長 武田 壽様
(機械46, 博士物質H21)
前 愛媛支部長 中谷 雅男様(冶金46)
表彰者を代表して、前茨城支部長の中村喜久男様が答礼されました。



来賓退席ののち議事にはいり、池内理事長より平成30年度の事業報告と決算報告がありました。名簿整理とメール案内による通信費の削減と、会計の厳格化による支出の削減が報告されました。楢原・岡本監事からの監査報告をうけ、異議なく承認されました。

続いて令和元年度事業計画と予算案の説明があり、名簿管理システムとホームページの改善費と本総会費を計上したことが説明されました。更なるインターネットやSNSの活用など経費節減に努める旨の説明がなされ、異議なく承認されました。

役員改選では、武田会長の退任に伴い、理事会から会長に柿木一高氏、副会長に谷喜文氏と仲田利通氏が推薦され、賛成多数により承認されました。

柿木新会長より顧問として、宮崎道生氏、矢野紘氏、高松雄三氏、村上研二氏、大賀水田生氏、武田壽氏の推挙があり、賛成多数で承認されました。

個人情報保護法の改正により会員名簿の管理がよ



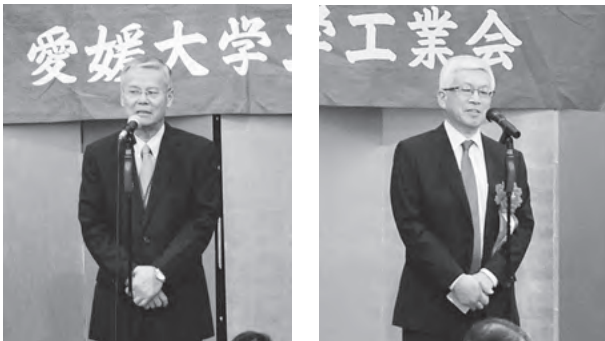


り厳しくなっていることから、会則の事業から書籍としての「会員名簿の発行」を削除し、同窓会活動にとって最も重要となる「名簿の管理」を最優先の事業として明記することが提案され、賛成多数で承認されました。

■祝賀会

はじめに柿木新会長からご挨拶がありました。続いて田中寿郎副学長、校友会の野村靖記副会長からご祝辞をいただき、磯村滋宏先生の乾杯で祝賀会が開幕しました。

愛媛大学合唱団の美しい歌声や鳥型人力飛行機で鳥人間コンテスト出場を目指す二宮翔会の報告などを楽しみながら歓談が続きました。



■総会を終えて

行き届かぬ点も多々あったと思いますが、直前の大型連休にもかかわらず関係各位のご協力で盛況な総会となりました。大学関係の方々や諸先輩方、約一年間に渡る準備や当日の運営に当たっていただいた総会実行委員の皆様にご感謝を申し上げます。

会員は現在24,000名を超えます。郵送料の値上げにより通信費が大幅に増大しており、様々な支援と合わせ支出は確実に増えています。

また、現在支部の無い東北、北海道や北陸、九州にも数多くの会員が存在しています。これまでのホームページと郵送による案内に加え、効率の良いメールやフォーム、SNS（公式Facebook）を活用して、より多くの会員様に情報を伝えるとともに、通信費の削減を進めていきます。

人生を振り返ったときに、社会へ出る礎となった愛媛大学での学生生活は思い出深いものがあると思います。それを思い起こす時、そこに工業会があるために、柿木会長のもと工業会の益々の発展に微力ながら尽力していきたいと思っております。

これまで以上に、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。



本部報告

令和元年度愛媛大学工業会総会議事録

日時：令和元年5月19日(日) 11:00～12:00

会場：大和屋本店 大和の間

出席者：高橋 寛 工学部長（工業会名誉会長）、武田 壽 会長、仲田 利通 副会長、
谷 喜文 副会長（兼高松支部長）他 計80名

□議事録署名人選出

議事録署名人として、昭和55年機械工学科卒の倉本逸男氏と平成7年機械工学科卒の井出孝道氏が選出された。

□総会成立要件の確認

会員総数22,624名に対し、総会出席者80名及び委任状1,687通の有効総数が1,767名となり、会則15条で示される定足数である正会員総数の1/50（453名/22,624名）以上の出席となり総会が成立することが確認された。

□議事

会則により、武田会長が議長として議事の進行を行った。

1. 平成30年度事業報告と決算報告について審議の結果、承認された。
2. 令和元年度事業計画と予算案について審議の結果、決議された。
3. 役員改選

【会長・副会長選任】

池内理事長より候補者が示され、柿木一高氏が会長に、谷 喜文氏と仲田利通氏が副会長に選任された。

以降、柿木新会長が議長として議事の進行を行った。

【顧問選任】

柿木新会長より、宮崎道生氏、矢野 紘氏、高松雄三氏、村上研二氏、大賀水田生氏、武田 壽氏が顧問として推挙され、承認された。

【理事・監事選任】

池内理事長より、新役員の理事会案が示され、原案通り承認された。

4. 会則の改訂
池内理事長より、名簿発行を行わないことに伴う会則の改正案が示され、原案通り承認された。
5. その他
特になし。

以上

議事録作成 理事 甲 斐 博

議事録署名人

理事

倉本逸男



理事

井出孝道



平成30年度愛媛大学工業会事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

■支部総会 案内状発送総数12,309通 総参加者数275名(内来賓22名)

支部	案内状発送数 総参加者数(内来賓)	前年比	開催日時	会場	本部からの出席者
広島	1,680通 52名 (2名)	0 ▲9 (0)	H30.9.8(土) (校友会中国支部設 立総会と合同開催)	ひろしまハイビル21	武田壽会長(博士物質H21) 機械 岡本伸吾教授(院生機59)
東京	1,737通 41名 (7名)	▲17 +3 (▲1)	H30.10.21(日)	グランパーク カンファレンス	武田壽会長(博士物質H21) 機能材料 藤井雅治教授(電52)
東海	626通 21名 (2名)	▲41 +1 (0)	H30.10.27(土)	京町しずく名古屋駅前店	谷喜文副会長(院電53) 電電 門脇一則教授(院電H2)
愛媛	3,763通 43名 (3名)	▲1,501 ▲2 (▲1)	H30.10.27(土)	愛媛大学校友会館2階サロ ンレストラン「haco愛大城北店」	武田壽会長(博士物質H21) 高橋寛学部長 大賀水田生元副学長(院土木51)
近畿	2,458通 33名 (2名)	▲52 ▲7 (0)	H30.11.3 (土・祝)	大阪第一ホテル	武田壽会長(博士物質H21) 情報 柳原圭雄教授(電子54)
高知	219通 21名 (2名)	▲80 ▲5 (0)	H30.11.10(土)	割烹旅館 臨水	谷喜文副会長(院電53) 電電 岡本好弘教授(院電子60)
高松	966通 28名 (2名)	▲14 ▲2 (0)	H30.11.16(金)	リーガホテル高松	武田壽会長(博士物質H21) 機械 岡本伸吾教授(院生機59)
岡山	860通 36名 (2名)	▲23 ▲5 (0)	H30.11.17(土)	アークホテル岡山	武田壽会長(博士物質H21) 機能材料 井堀春生准教授 (院電H4)

■会 議

- ・学内委員会……………平成30年4月9日(10名)
- ・会長会(武田会長, 仲田副会長出席) …平成30年6月27日, 平成31年1月30日
- ・顧問会……………平成31年2月26日
- ・三役会(会長選考準備会) ……平成31年2月15日
- ・常任理事会……………平成30年4月12日(10名), 5月15日(8名), 6月11日(12名),
7月30日(15名), 11月28日(13名), 平成31年1月17日(13名),
2月19日(13名), 3月4日(12名)
* 6/11, 7/30, 11/28, 1/17, 2/19, 3/4は総会実行委員会も兼ねている
- ・理事会……………(メール会議:平成30年4月27日～5月20日)
- ・役員会……………平成30年5月20日(30名)
- ・会誌編集委員会……………メール会議のみ

■会誌第32号発行……………平成30年9月

■講演会 募集し学科内で検討いただいたが, 対象にならず今年度は申請なし

■その他

- ・学生活動援助 5 件（機械工学科，電気電子工学科，機能材料工学科，応用化学科，情報工学科）
- ・HP更新・管理
- ・名簿調査・システム改修
- ・愛媛大学基金・工学部寄付
- ・卒業お祝い（540名分）
- ・退職教員お祝い（1名）
- ・大会運営費（テニス大会：学生含めて43名）
- ・特別広報支援（人力飛行機）
- ・特別寄付 西日本豪雨災害……岡山県，広島県，愛媛県，高知県

■海外研修旅費 合計135,000円

[学 生] 3名

	氏 名	所 属 学 科	会議場及び期間	補助金額
前 期	5万5千円			
1	二艘木健太 (小林 千悟)	大学院物質生命工学専攻 1年	ベトナム ハノイ工科大学 (2018. 9. 5～8)	5.5万円
後 期	8万円			
1	木村 将也 福井 達平 (岡本 伸吾)	大学院生産環境工学専攻 2年	タイにおける国際会議 (2019. 3. 16～17)	4万円 × 2名

* () は指導教員

愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターが始動しました

船舶海洋工学センター

センター長 豊田 洋通

1. 船舶海洋工学センター創設の背景と目的

愛媛県の産業における出荷額規模では、県内の市の中で今治市が最上位です。今治地区では、古くから今治タオル製造をはじめとする繊維工業が、産業を支えてきましたが、現在では、造船産業をはじめとする輸送用機械器具製造業が主たる産業基盤となっています。さらに今治経済圏において付加価値構成比は輸送用機械器具製造業が約6割を占め、造船業は県の重要な産業です。今治市は、安定した雇用を創出することと、高い技能を持った団塊の世代の退職に伴う技能の伝承を目的として、次世代の人材育成のために、平成17年3月に今治地域造船技術センターを開所しました。このセンターは、今治市などの造船関連企業34社(平成30年4月現在は49社)が会員・賛助会員となり、造船関係業務の未経験者・初級者等を対象に現場工事の技術・技能向上を目指す訓練施設です。一方、愛媛県は高卒技術者の育成として、造船技術に特化した今治工業高校機械造船科を平成29年度に新設しています。また、弓削商船高等専門学校もあることから、今治市並びに愛媛県においては、船舶工学に関する高度な技術者を育成するための教育・研究体制を切望しており、この地区にはその潜在的可能性があります。このような状況にあるなか、建造量及び産業集積が日本第1位の愛媛県にある愛媛大学に船舶海洋工学センターを設置し、日本及び世界の海事産業を牽引していくことは、社会的に大きな意義があります。また、愛媛大学の基本理念(「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」、「世界とつながる大学」を創造する)にも適合しています。そこで、愛媛大学では、造船産業の重要性に着目して、大学院理工学研究科に造船工学特別コースを設置し、専任教授を2名寄付講座にて雇用し、造船技術者の育成を行ってきました。しかしながら、造船業界からは、既設の造船工学特別コースによる大学院生の教育だけでなく、学部生の教育および高卒造船技術者のリメディアル教育の要請が高く、平成30年6月13日に造船工学の教育全般を扱う愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターを設置しました。

2. 船舶海洋工学センターの事業構想

工学部附属船舶海洋工学センターは、図1のような組織です。このセンターを中心に他大学の関連学部・学科の教員と連携して教育・研究の充実を図ります。また、寄付講座を介して愛媛県下の船舶・海運関連業界との連携を図ります。さらに、専門的な見地からセンターの運営に協力するアドバイザーを設置しています。また、地域ステークホルダーとしてセンターの活動への助言を行うコンソーシアムを設置しています。

船舶海洋工学センターでは、地域の産業振興への貢献として以下のことを目標として産官学連携を行っていきます。

- (1) 地域の産業発展、特に造船業・海運業の発展を目的とした企業および自治体との共同研究を推進します。
- (2) 地域の要望に基づく社会人の学び直し教育(履修証明プログラム、社会人修士/博士)
- (3) 学生の地域への就職活動支援のためのキャリアセミナー、インターンシップを実施します。

教員を中心に、将来的には企業の寄付研究室の教員・研究員を加え、船体の設計、船体の構造強度、船体材料、船体の振動・制御、流体工学、溶接工学、船体の加工、動力機関、海洋エネルギー、海洋ロボット、海洋センシング等の教育・研究を行いながら、船舶や海洋人工物を設計するために必要な高度技術を修得すると共に、創造力を発揮しイノベーションを起こすことができる人材の育成を行います。

平成31年4月1日現在のセンター専任教員は2名、兼任教員は22名で構成されています。専門分野も多岐にわたっており、造船に関する諸問題のすべての研究分野をカバーできると考えられます。平成30年3月5日、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターキックオフシンポジウムを今治地域地場産業振興センターにて開催しました。アドバイザーの日本船舶海洋工学会会長の柏木正大阪大学教授に「日本の船舶海洋工学に期待されること」の題で講演をしていただき、その模様は、翌日のNHKおはよう愛媛で報道され、日本経済新聞に掲載されました。今治地区で開催されている、バリシップ(日本最大

の造船の見本市)には平成30年11月(こどもバリシップ)と令和元年5月に参画し、全国の造船会社からも問い合わせが来て、研究相談を受けております。地域とともに輝く大学を目指して専任、兼任教員で

助け合いながら頑張っていく所存ですので、工業会の皆さまには、ご支援のほどよろしく願いいたします。

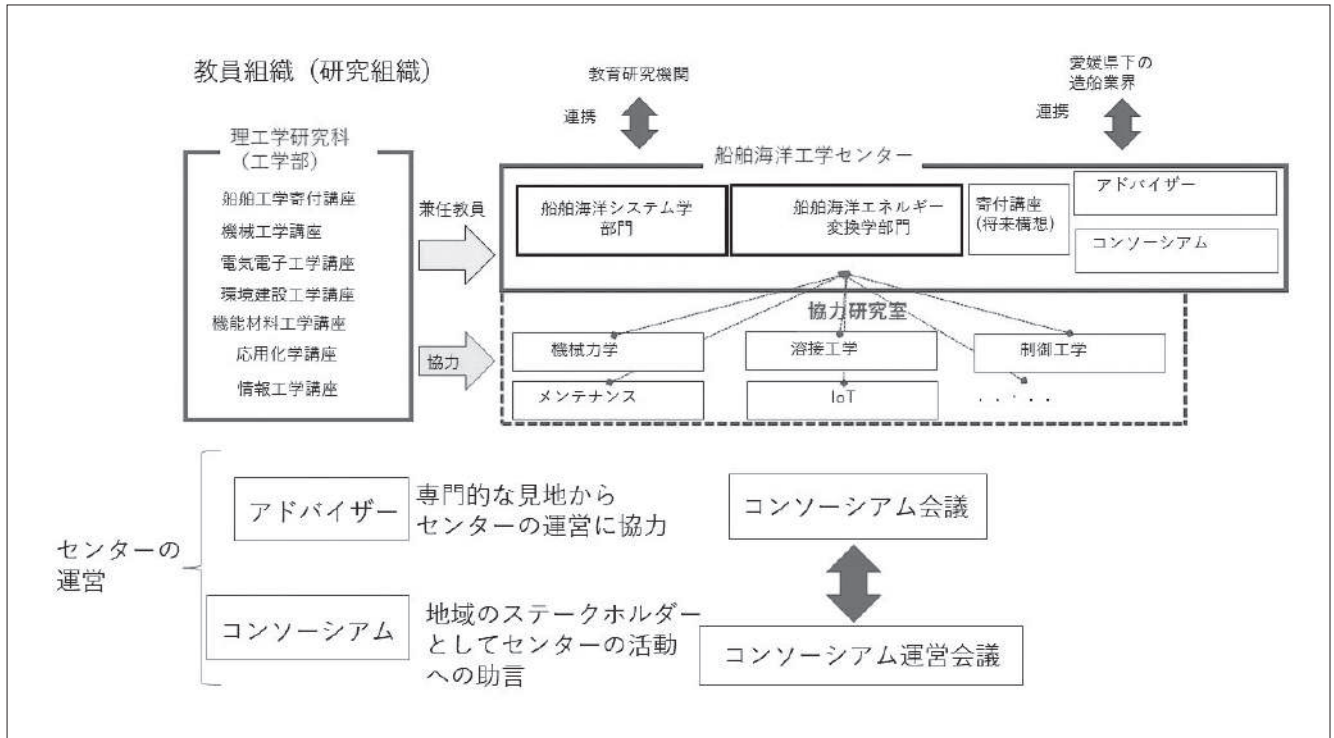


図1 愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターの組織

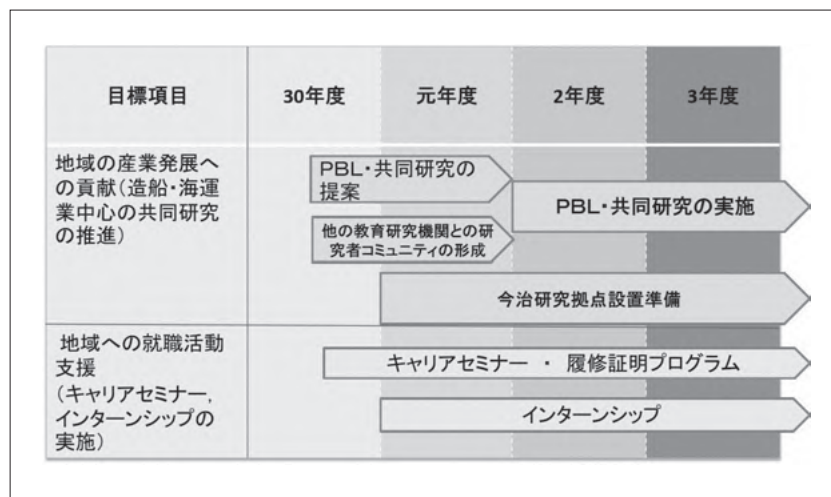


図2 船舶海洋工学センターの事業構想

2019年7月に「工学部附属高機能材料センター」を設置しました

高機能材料センター

センター長 小林 千 悟

地域の素材・モノづくり産業を活性化するために、2019年7月に愛媛大学工学部に高機能材料センターを設置しました。本センターでは、以下の3つを通して、地域素材・モノづくり産業の課題を解決し、地域産業の活性化とイノベーションに貢献します。

- ① 産官学連携(共同研究)による高機能材料の開発
- ② 高機能材料を活用した製品開発のモノづくり技術支援
- ③ 高機能材料を利活用できる人材の育成

1. センター設置の背景

愛媛県の製造品出荷額等は約4兆1,392億円(平成26年)であり、愛媛県は製造品出荷額等において、四国全体の約50%のシェアを有する工業県としての特徴を堅持しています。中予地域には、先端素材を代表する炭素繊維の世界シェアの約40%を占める企業や炭素繊維複合材料(CFRP)によるコンポジット製品事業をリードしている先端素材関連産業があります。さらに、農業機械専業メーカーや小型貫流ボイラ日本一の企業など、機械器具関連産業も盛んであります。東予地域も、先端素材関連企業、機械・金属・プラスチック関連企業が多数あり、県内の製造品出荷額の8割近くを占め、四国一のモノづくり産業地域です。このような県内地域の産業の特徴をさらに強化して、先端素材関連産業や機械・金属・プラスチック関連企業の競争力を増強するためには、産官学の連携を強固にして、大学と企業との共同研究等を通じて新技術・新商品を開発し、地域の新産業の創出が切望されています。喫緊の課題としては、第4次産業革命やSociety5.0で実現しようとしている様々な知識や情報を共有しAIやIoTを利活用した新たな材料づくり・製品開発のための高度な人材育成があります。

愛媛大学工学部においては、機能材料工学、応用化学、機械工学、土木工学、電気電子工学の幅広い工学分野に、金属材料、無機材料(セラミックス)、有機材料(高分子)、電気材料、複合材料、建設材料など様々な素材を専門とする研究者群と研究設備を有しており、また、電気電子情報工学ではAIやIoTに関する研究者群を有していることから、地域産業の多様なニーズに応えられる強みがあります。す

に研究者間で共同研究、プロジェクト研究がいくつか進行しており、得られたシーズを地域産業活性化に資する基盤が整っています。

2. センターにおける活動内容

本センターにおける活動は大きく3つに分けることができ、①受託・共同研究の推進、②モノづくり技術支援、ならびに、③地域人材の育成を行います。

① 受託・共同研究による高機能材料の開発

地域企業からのニーズを吸い上げ、問題点の抽出を図り、素材開発に関する共同研究テーマの選定ならびに大学側研究者の人選を行います。得られた成果は、特許・知財の共同出願や学会・論文誌等において公表します。地域企業からのニーズの吸い上げを行う場として、産官学連絡会を定期的に開催し情報交換を密に行います。

② 高機能材料・汎用材料を活用したモノづくり技術支援

工学的視点から高機能材料や汎用材料を活用したモノづくりの技術支援をします。大学における分析・解析技術を活用し、モノづくりにおける問題点の明確化とそれを解決するための技術を提供します。さらに、成果物としての特許・知財の共同出願及び出願時の支援を行います。

③ 高機能材料を利活用できる人材の育成

講演会、セミナー、シーズ発表会などの開催に加え、社会人の学び直しのための履修証明プログラムを開設し、高機能材料を理解するとともに、第4次産業革命やSociety5.0のもとでの新たな材料づくり・製品開発を行うことができる人材を育成します。

3. センターの組織

本センターでは、図1に示す材料別6分野(金属材料、有機材料・繊維材料、無機材料、機械材料・複合材料、電気材料、建設材料)に兼任教員45名を配置し、それぞれの分野に分野長を定め、分野長は各分野の取りまとめを行います。船舶海洋工学センターや紙産業イノベーションセンターと密に情報交換し、愛媛大学の材料開発・モノづくり関連シーズを取りまとめ、理工学研究科(工学系)教員と連携して教育・研究の充実を図ります。企業様からのご

相談の窓口は、従来と同様に社会連携推進機構が窓口となりますが、下記の項目に述べる産官学連絡会においても相談の機会があります。

4. 産官学連絡会の設置

技術課題や問題点の抽出（ニーズ抽出）と知識・技術の情報ならびに研究・開発資金情報等の提供（シーズ提供）の場として、センターに定期的に開催する「産官学連絡会」を設置します（図1）。ニーズとシーズの適切なマッチングを促し、産・官・学

が連携しさらに異業種の企業同士が連携して、地域素材産業の課題解決ならびに地域産業活性化への取組を継続的に実施できるようにします。

工業会の皆様からの研究・技術開発のご相談ならびに人材教育のご相談もぜひお寄せいただけますと幸いです。本センターは、愛媛県地域のみならず、中国・四国地域、そして全国の各地域の工業の発展に寄与したいと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

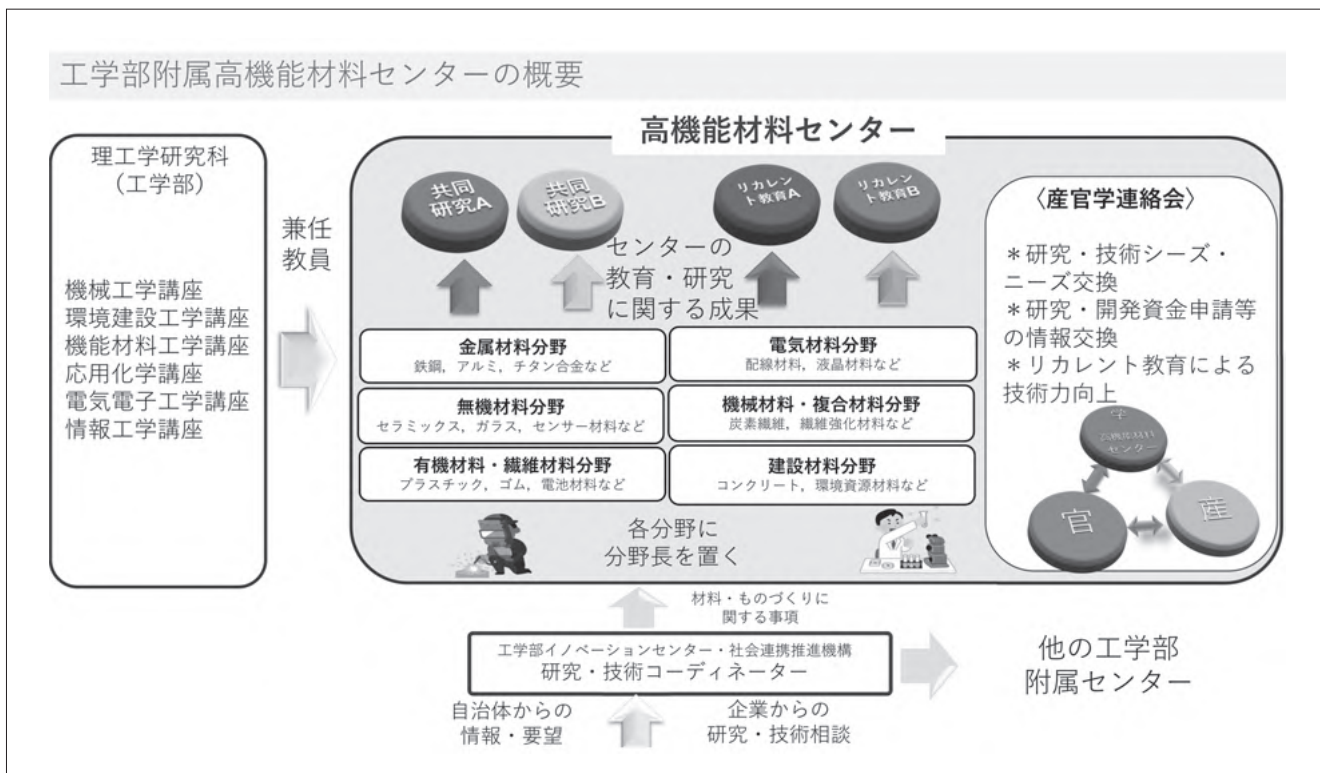


図1 工学部附属高機能材料センターの概要

東京支部報告 2018年8月～2019年7月

東京支部長 鳥海基忠(機54)

1. 活動内容：①支部総会開催，②関東他学部同窓会総会参加，③校友会首都圏支部活動のサポート，④本部理事会参加，⑤工業会誌原稿執筆，⑥支部名簿メンテナンス，⑦東京支部ホームページ管理など。

2. 支部総会：

【日時など】案内送付は1,737通。2018年10月21日，グランパークコンファレンス（港区）で開催。参加者は会員34名+来賓7名=合計41名（2017年39名，2016年49名，2015年58名）。

【議事次第と結果】支部活動報告，平成29年度決算，監査報告，平成30年度活動計画・予算案審議と承認。支部長改選を行い，鳥海基忠（機械工学科，昭和54年卒）が再選。

【講演会の大幅変更】愛大教員による講演会を中止。2020年からの支部総会開催方法変更の伏線として，以下の説明を行った。①愛大学部再編（藤井雅治工業会副理事長），②愛大同窓会組織状況（武田壽工業会会長），③工業会広島支部・校友会中国支部状況（河野徹広島支部長），④校友会首都圏支部状況（清水栄治支部長）

【決定事項】支部役員提案の支部総会変更案に基づき，2019年支部総会での最終承認を目標に準備活動を行うことが満場一致で承認。

3. 活動のポイント：

①電子メール名簿の充実と活用：地道な電子メールアドレス収集により，支部会員約1,800名のうち約800名のアドレスを管理。支部総会案内，校友会講演会案内，鳥人間コンテスト，その他の情報をメールで流した。

②従来問題：会員数の減少。総会出席者数の減少（常連会員高齢化，会員減少問題による）。役員少人数運営（4名）の弊害で支部セミナー開催計画が頓挫。

③改革：同窓会関係者が参加する校友会首都圏支部で改革を継続議論，「各学部支部総会および校友会首都圏支部イベントの同日開催と合同懇親会開催の案」を各学部同窓会支部で審議することで合意。

④2019年の挑戦：7月13日，校友会首都圏支部講演会，ユウカリ会東京（農学部同窓会）総会，東京章光会（法文学部同窓会）総会を同日開催し合同懇親会を行い90名弱の関係者が集まった。昨年の校友会支部総会参加者は42名。校友会支部で総括予定。

⑤工業会東京支部の合流：「2020年工業会東京支部総会は7月開催に変更し，上記の合同開催に合流する」ことを本年11月支部総会で提案し，承認を得る予定。



東海支部活動報告

東海支部長 兵頭 修 (機46)

東海4県（愛知，三重，岐阜，静岡）で，ご活躍の愛媛大学工学部卒業生の皆さん！

皆さんは，愛媛大学工学部で勉強された学生時代を思い出すことはありませんか？ なかなか，愛媛大学の噂がテレビ等で流れないので，すっかり忘れておられるかもしれませんが，今の愛媛大学は，学園内の校舎やグラウンドはもちろん，学生生活も大きく変化していて，OBの我々には，昔の学生生活が桃源郷のように思われます。それを実感して頂くうえでも，ぜひ，東海支部総会に参加して頂き，愛媛大学の近況を現役教授から，直接，お話を聞いて頂ければ幸いです。

一方，東海支部の活動は，年1回の総会と会員同士の親睦会程度の活動ですが，参加される方々が年々高齢化してきて，平均年齢が上昇するばかりです。

つきましては，愛媛大学を卒業し，東海4県の会

社に入社されたばかりの方々には，愛媛大学工学部で培った技術屋としての好奇心を思い出して頂き，東海4県でご活躍の諸先輩方の会社生活や仕事の進め方について，お互いに話し合い，談笑し合うことで，少しでも技術屋としての好奇心に火をつけ，東海支部総会を楽しんで頂きますよう，お願い申し上げます。

また，お招きした現役の教授には，愛媛大学の近況報告をして頂きますので，世界に向けて活躍する愛媛大学工学部の逞しい姿を，直接肌で感じて頂き，その卒業生であることを誇りに思ってもらえれば幸いです。

最後に，お近くの愛媛大工学部の卒業生を見つけて，お互い，お誘いの上，今年の東海支部総会には，ぜひ，ご出席頂きますよう，お願い申し上げます。

（2019年10月26日JR名古屋駅周辺の居酒屋の予定
／詳細は後日御案内）



東海支部総会風景（2018年10月27日）

平成30年愛媛大学工業会近畿支部総会&懇親会の報告

近畿支部長 渡 邊 武 晴 (機42)

1. 支部活動状況

1) 総会&懇親会について

近畿支部では平成30年度総会&懇親会を平成30年11月3日(土・祝)に大阪第一ホテルで開催しました。

当日は工業会本部より武田会長、学校より情報工学科の柳原教授をお迎えし、総勢33名の出席者での開催となりました。

冒頭この1年間で亡くなられた会員の方々のご冥福を祈り1分間の黙とうを行い、総会に移りました。

総会では、支部の活動状況、会計、役員体制(前年と同じ)などが報告通りの内容で承認されました。

引き続き行われた懇親会では、武田会長からは、工業会の近況や来年の80周年記念総会の事、ご自身の近況などのお話を戴きました。また柳原教授からは最近の学校のめまぐるしい改革、改組(教養課程の廃止や1学科9コースなど)の状況を伺いました。引き続き武田会長の乾杯のご発声で懇親会が始まり、学校時代の懐かしい話や近況を語り合ったり、名刺交換したりで賑やかな懇親会となりました。

そのあと出席者全員が順番に近況を報告しました。それぞれ第二の人生での生き生きとした活躍ぶりについて、それぞれが個性あふれる内容の話を披露するのでみんなが興味津々で大いに盛り上がりました。

最後に、若手幹事機械平成5年卒の山崎裕司君の

万歳三唱で会を締めくくり来年も元気に再会を約して閉会となりました。

総会後の役員会で、新たに3人の若い役員候補(情報H18年卒浅田浩照君、院機材H25卒仙波亮太君、院機材H27卒藤橋健太)が承認され、今後の活躍が期待されます。

2) 校友会との連携

工業会近畿支部では校友会近畿支部の活動にも連携・協力させていただいております。3月3日(日)には校友会主催の就活生46名と近畿圏在住の卒業生等27人による情報交換会が大阪梅田で開催され、工業会近畿支部からも7名が参加して学生たちと就職活動に当たってのアドバイスや経験話等の情報を交換しました。

☆次年度(2019年)の近畿支部総会&懇親会の予定

- ①日時 2019年11月16日(土)
11:00~14:00 (10:30より受付)
- ②場所 大阪第一ホテル
(JR大阪駅前の大阪マルビル内)
〒530-0001 大阪市北区梅田1-9-20
- ③会費 3,000円(但し、卒業後5年目までと女性会員は会費1,000円)



岡山支部報告

岡山支部長 額田 信一 (電52)

岡山支部の活動状況について、以下にご報告させていただきます。

1. 特別講演会 平成30年11月17日
2. 支部総会・懇親会 平成30年11月17日
3. 支部役員会兼会員懇親会 令和元年7月13日
4. 次回支部総会予定 令和元年11月23日

1. 特別講演会

平成30年11月17日(土)の午前中に「アークホテル岡山」で開催しました。シャープタカヤ電子工業(株)の岡山満洋氏(電子H5卒)に、『LSIテスト技術の動向』をテーマに特別講演をしていただきました。LSI素子の試験方法や、スマートフォンに搭載される微小なカメラモジュールの話など、興味深いお話をお聞きすることができました。

2. 支部総会・懇親会

同日の午後より、記念撮影、総会、及び懇親会へと移行しました。

大学から井堀春生准教授(愛媛大学大学院理工学研究科)を、本部から武田壽愛媛大学工業会会長を、広島支部から河野徹支部長(校友会中国支部副支部長を兼任)をご来賓にお迎えし、大学と工業会および校友会の近況をお話いただきました。その後支部状況の報告、役員を選任、会計報告ならびに監査報告が行われ、全ての議案が賛成多数をもって承認されました。

懇親会では特別参加者として農学部と教育学部の3名をお迎えし、当会員は卒業年度が昭和20年代の



方から平成17年度の方まで、和気あいあいと懇親を深めていただき、最後は恒例の学歌斉唱と一本締めで無事閉会となりました。参加人数はご来賓を含めて36名でした。なお語り尽くせなかった方は、同ホテル内で開催された二次会にて更に話の花を咲かせながらカラオケ等で大いに盛り上がりました。

3. 支部役員会兼会員懇親会

令和元年7月13日(土)に居酒屋「がってん八兵衛」で開催しました。額田支部長から、工業会本部の理事会や総会の内容が報告され、石井顧問(校友会中国支部副支部長を兼任)から、校友会の状況が報告されました。11月に開催予定の特別講演会および支部総会・懇親会の準備について話しあった後、恒例の会員懇親会に移り、役員・会員が楽しく歓談しました。参加人数は14名でした。



4. 次回支部総会予定

次の総会は令和元年11月23日(土・祝)を予定しております。同日開催の特別講演会は、たまの全体の山口宏氏(生機S45卒)に人体の不思議についてお

話しいただきます。是非ともお知り合いの会員の方をお誘い合わせのうえ、ご参加下さる様お願い致します。

広島支部報告

広島支部長 河野 徹(土42)

1. 2018年度の工業会広島支部総会と校友会中国支部設立総会

広島支部では2018年9月28日(金)の校友会中国支部設立総会に先立ち、工業会広島支部総会を同日開催致しました。工業会より武田会長、大学より岡本教授をお迎えし、総勢52名の参加となりました。岡本教授には2019年度より実施される「工学部改組」の趣旨と概要についてわかりやすく説明していただきました。改組の趣旨は幅広い知識で柔軟に対応する力、グローバルに活躍できる行動力、イノベートする力などを養うことにあるそうです。この改組により愛媛大学が引き続き優秀な工学系人材を輩出されることを期待しています。

今回は校友会中国支部設立総会に合わせての実施のため、広島工業会以外からの出席者として、広島支部活動事情の視察を兼ねて山口県、岡山支部から数名の参加がありました。今回、設立した校友会中国支部は、隔年で総会を実施し、その開催も広島と岡山で交互に開催する予定です。また講演会は校友会総会が開催しない年に実施するので、2019年は校友会主催の講演会と工業会広島支部総会を同日開催する事にしました。工業会広島支部総会、講演会、



写真1 広島支部工業会総会

懇親会の3点セットとなり、多少はアカデミックな会となるでしょう。なお懇親会は昨年と同様、合同懇親会となります。同時開催と言う事で、幅広い愛媛大学の卒業生にお会いできる楽しみも有ります。

一方、工業会広島支部の総会は時間的制約もあり、十分な説明・審議時間が取れない事、集合写真は参加者が多いため、どこに誰がいるのは判りにくい欠点もあります。

来年は岡山で校友会中国支部総会を開催予定です



写真2 集合写真

ので、工業会広島支部総会は、校友会行事とは別の日程で開催する事になります。開催日程については、今年の総会にて検討します。又昨年から決算及び活動計画の報告をホームページへの掲載という形でしております。下記アドレスにてご確認の上、ご意見ご希望をお寄せ下さい。

【愛媛大学工業会広島支部ホームページ】

<http://www.eu-kogyokai.jp/hiroshima/>

2. 2019年度 愛媛大学工業会広島支部総会

日時 2019年9月28日(土)14:00～

場所 TKPガーデンシティPREMIUM
広島駅前8階

本年度の支部総会の開催場所は昨年と異なり、上記の会場で開催します。引き続いて、同場所で校友会講演会（8F）、合同懇親会（4F）と順次、同じ建物内で開催する予定です。

高松支部活動報告

高松支部長 谷 喜文 (院電53)

愛媛大学工業会の皆さま、お元気ですか？

恒例の高松支部大会は平成30年11月16日(金)、リーガホテルゼスト高松において、大学より機械工学科の岡本伸吾教授、工業会より武田壽会長をお迎えし、総勢28名にて盛大に開催致しました。

岡本先生からは、工学部が1学科となる大きな変化をご紹介いただき、武田会長からは来年5月に工業会80周年の総会が開催されることなど本部近況についてなどお話し頂きました。

出席者は、院電気53年の私(谷)が最年長になっていたことに驚きましたが、昭和卒11名、平成卒15名と高松支部は初めて平成卒の人数が昭和卒を上回りました。

様々なキャリアの皆さまと楽しい時間を共有でき、やはり最後は、「工業会の旗」の下、お約束の記念撮影です。

昨年につづき今年も4月20日(土)に高松グランドカントリー鹿庭コースで9名が集まりゴルフを楽しみ



ました。

結果は、電気51年の越智英治様が優勝されましたが、電気32年の川口春陽児先輩のお元気なプレーには全員敬服致しました。

高松にゆかりの皆さん、年に何度か母校の話や近況報告で盛り上がってみませんか？

楽しい仲間が待っています。



高知支部報告

高知支部長 中村考男(鉦40)

高知支部では、総会を平成30年11月10日(土)午後5時30分より、鏡川河畔の料亭臨水で開催しました。

出席者は本部から谷副会長、大学から岡本教授をお迎えし総勢22名の開催となりました。

総会に先立ち夕部雅丈工学博士(博士生産H13)による「成人成長理論」と題した講演会を開催しました。成人発達理論の分野では最先端の研究をしているロバート・キーガンの「人は生涯を通じて成長していくことができる」という成人の「発達の5段階」、その分析手法についての内容でした。キーガンは、精神の分野に身体反応を導入して、思考の「免疫マップ」を開発しており、「改善目標」「裏の目標」「強力な固定概念」を炙り出すことによって成長できることなどを分析事例で紹介し、貴重な話を聞くことが出来ました。

総会では、谷副会長から工業会の近況について、岡本先生から大学を取り巻く状況について、話がありました。

懇親会では、穴の開いたひょっとこや天狗などのベク杯の発祥の店でもあり、おかみの三味線で、ベク杯ゲームを行い、大いに盛り上がり楽しい時間となりました。

翌日、毎年カシオワールドカップが行われているkochi黒潮カントリークラブで、ゴルフ大会を行い



2018. 11. 11 黒潮カントリークラブ

ました。当日は良い天気にも恵まれ、雄大な太平洋を眺めながら和気あいあいと楽しいゴルフでした。ちなみに成績はダブルペリア方式で谷副会長がグロススコア102、ネットスコア74.4で優勝し、ベスグロは竹内大蔵(電60)さんで86でした。

令和元年の支部総会・懇親会は11月9日(土)午後5時30分より、料亭臨水で開催します。支部総会前には、昨年と同様に特別講演と翌日には、ゴルフを予定しております。多くの皆様方の参加をお待ちしております。



2018. 11. 10 第28回高知支部総会 於料亭「臨水」

平成30年度『第26回愛媛大学工業会愛媛支部総会』報告

愛媛支部長 木村正樹 (院機54)

【日時】平成30年10月27日(土) 14:00から19:20

【場所】愛媛大学工学部本館3階大会議室

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

報告に先立ち総会までに亡くなられた会員がたのご冥福をお祈りしました。

第26回の愛媛支部総会のご報告をいたします。ご来賓として、

高橋 寛 先生 (工業会名誉会長, 工学部長及び本部からのご出席)

大賀水田生 先生 (愛媛大学副学長・前工学部長及び本部からのご出席)

武田 寿 様 (工業会会長及び本部からのご出席)をお迎えし、また、新社会人として11名と二宮翔会の2名を招待しました。

卒業から10年未満の若い工業会会員は懇親会会費を2,000円と安くしました。先生がたとの久しぶりの再会を喜ぶ光景が見られました。

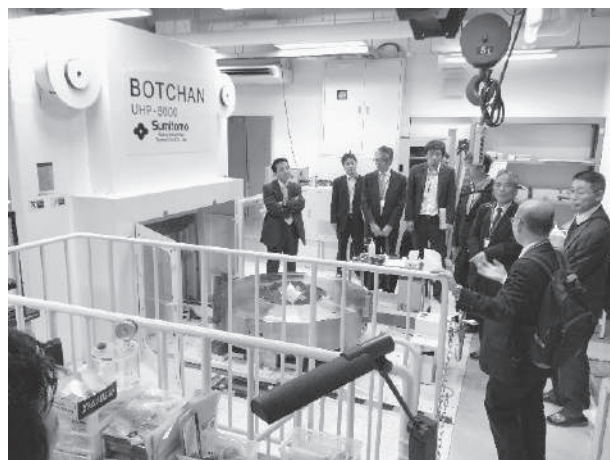
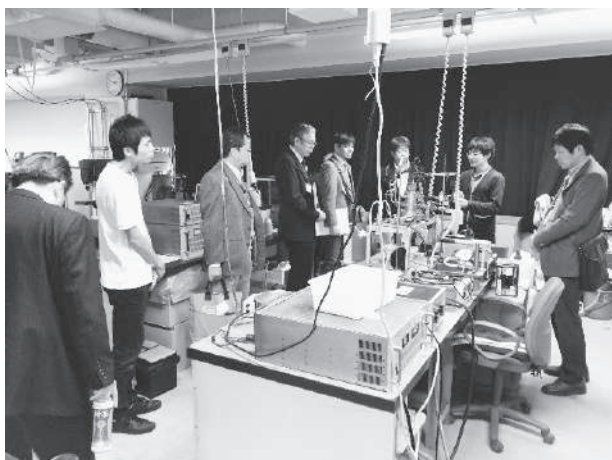
開催の挨拶を木村支部長から申し上げました。ご来賓を代表して高橋工学部長から、愛媛大学および工学部の近況とご祝辞をいただきました。工学部が1学科9コースに改組され新しいカリキュラムで教育内容も大きく変更されました。

総会では、平成29年度支部活動報告と決算および監査報告、そして「役員改選」の議事では、副支部

長に岡本伸吾先生 (院生機59) と渡部公則様 (生機51) が承認されました。平成31年度の活動計画・予算(案)は工学部開設80周年の総会(工業会70周年)を開催し、愛媛支部総会の行事予定に代えることが承認されました。

約2時間かけて工学部やミュージアム等の見学会を行いました。工学部の本館と3号館の6か所の研究室を見学し博士前期や後期課程の学生や教員から説明を受けました。ポスター発表や実験装置で興味深いお話がございました。学生から直接話を聞く貴重な機会でした。校友会館レストランhacoの懇親会では、渡邊政富副支部長の進行のもと、大賀先生からご祝辞をいただき、武田会長の乾杯の後、皆さんご歓談していただきました。アトラクションとして、愛媛大学医学部奇術クラブの在学生によるカードとコインのマジックを各テーブルごとに目の前で楽しみ、ビンゴゲームで会は盛り上がりました。最後は矢野顧問に中締めしていただきました。なお、ご来賓を含めて見学会では40名、懇親会では43名のご参加をいただいた意義深い一日となりました。愛媛支部総会の次回(令和2年度)は多数の参加をおねがいします。

(なお、愛媛支部総会実行委員会を総会までに7回開催しました。)



テニス大会

第40回工業会テニス大会報告

十河 基介 (生機H4)

第40回の節目の大会が、12月8日に城北キャンパスのテニスコートで開催されました。週初めには12月とは思えない暖かい日が続いていましたが、大会当日は寒気のため、打って変わって寒い中での大会となりました。一週間の中での気温差が10℃もあり、体調管理が難しかったのですが、潑刺としたプレーが繰り広げられました。参加者は、昨年より少し増えて卒業生5名、愛媛大学職員6名を含め総勢43名でした。学生の参加者の内、工学部学生は10名でした。

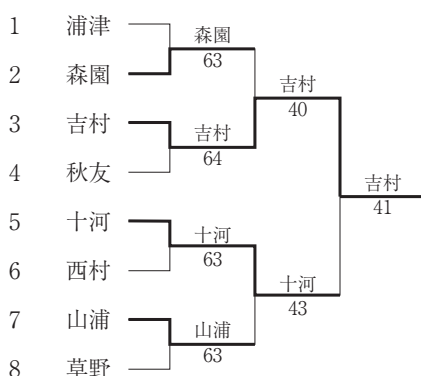
開会式での池内理事長の挨拶の中で、工業会の紹介や活動などについての話があり、工学部学生、職員には、工業会について知ってもらえ、卒業生には活動を確認できる、良い機会であったと感じました。

本大会は老若男女の区別なく行われており、女性

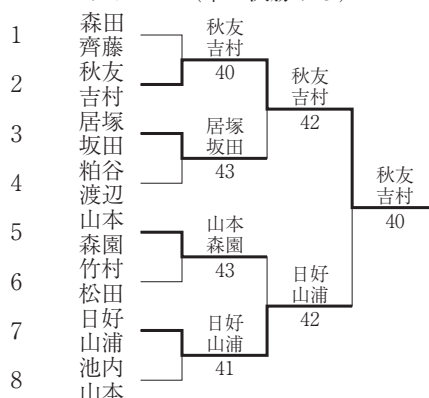
と60歳以上にはハンディが設定されています。学生は大会運営などの下支えをしてくれており、参加者は、テニスはもちろんの事、卒業生同士での近況報告や、参加者間の交流をのんびりと楽しむことができました。各コートで熱戦、接戦が繰り広げられ、シングルスでは、卒業生として久しぶりに決勝に残った私を、吉村さんが一蹴して優勝、吉村さんは、ダブルスでも秋友さんと組んで優勝し、単複制覇となりました。

大会最後にテニスコートで簡単に表彰式を行い、今年度の大会は終了しました。テニスを通じて、立場や世代を越えて交流を深め、意義深い一日となりました。次回の工業会テニス大会では多くの皆様の参加を、お待ちしております。

シングルス (準々決勝から)



ダブルス (準々決勝から)



参加者 (敬称略)

藤井 (電S52教員), 山田 (海S59),
池内 (電S62), 十河 (生機H4職員)
日好 (機材H24), 工学部学生10名
竹村 (職員), 森田 (職員), 居塚 (職員)
山本 (職員), 栗津 (職員), 亀岡 (職員)



総会記念テニス大会（80周年）報告

十 河 基 介 (生機H4)

ここ何年かは寒い時期に大会が行われていましたが、今年は5年に一度の工業会総会に併せて、総会前日の5月18日に城北キャンパスのテニスコートで開催されました。前日までは雨が降りそうな予報でしたが、当日はほとんど降ることはありませんでした。例年とは違い爽やかな季節での大会ではありましたが、プレイ中は汗ばむ陽気で、快適にテニス大会を楽しむことができました。参加者は、卒業生6名、愛媛大学職員2名を含め総勢27名、学生の参加者の内、工学部学生は6名でした。

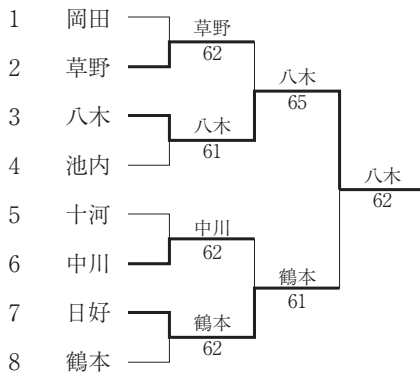
開会式での池内理事長の挨拶の中で工業会の紹介や、総会を含めての活動についての話があり、工学部学生および職員には、工業会について知ってもらうことができ、また卒業生には活動を再確認することができる、良い機会であったと感じました。

本大会は老若男女の区別なく行われており、女性

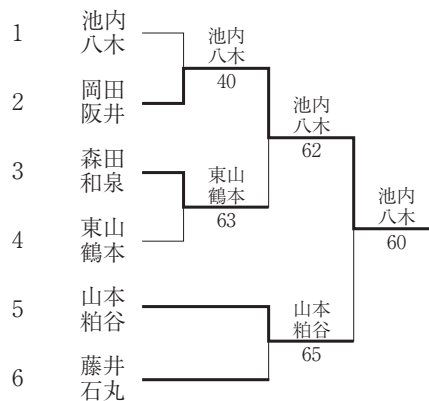
と60歳以上にはハンディが設定されています。学生は大会運営などの下支えをしてくれており、参加者は、テニスはもちろんの事、卒業生同士での近況報告や、参加者間の交流を楽しむことができました。今回は総会への参加に併せて参加いただけた方もいっしょに、貴重なお話を聞くことができました。大会はシングルスでは、卒業生の八木さんが学生をなぎ倒して見事に優勝、八木さんは卒業生の池内さんと組んでダブルスでも優勝し、単複制覇となりました。卒業生の単複完全制覇は、久しぶりの快挙です。

大会後に簡単な表彰式を行い、今年度の大会は終了しました。テニスを通じて、立場や世代を越えて交流を深め、意義深い一日となりました。次回の工業会テニス大会では多くの皆様の参加を、お待ちしております。

シングルス（準々決勝から）



ダブルス



参加者（敬称略）

東山（電S46）、藤井（電S52教員）、池内（電S62）、重松（電子S63）、十河（生機H4職員）、日好（機材H24）、八木（電気H25）、工学部学生6名、森田（職員）、山本（職員）



ゴルフ大会

総会記念ゴルフ大会（80周年）報告

渡 邊 政 富（土木H2）

令和元年5月18日、松山ゴルフ倶楽部川内コースにおいて、工業会80周年記念ゴルフコンペが開催されました。当日はやや曇天の絶好のコンディションの中、卒業生12名が早朝から川内に集合し、練習グリーンで再会を喜びながら談笑するなか、和気あいあいとした雰囲気で開催式を行いました。武田会長の開会あいさつと事務局よりルール説明があり、全員で記念撮影したのちに、川内名物のバスに乗ってアウトコースへ移動して、いよいよコンペがスタートしました。

当日の参加者は、電気電子工学科系が3名、機械・生産機械工学科系が3名、土木海洋工学科系が6名という構成でしたので、それぞれの学科が共通な3人ずつの4組の組み合わせとしました。同じ系列の学科で共通の話題も多いメンバーとのラウンドは、非常に気楽に楽しく回れたと、何人もの方から喜んでいただけました。

全員がラウンド終了したところで、クラブハウスに集合し表彰式を行いました。今回のコンペは5年に一度のイベントですので、参加賞として「工業会タオル（今治タオル）」を事務局から提供され、必ず何か一つは景品を持って帰っていただけるようになりました。成績はダブルペリアのハンデ戦として成績をスタート室で計算してもらい、計算結果を表彰式場に持ってきてもらったところ、あろうことか

優勝はゴルフコンペ幹事自身になっていました。さすがにこれはマズイとご遠慮したのですが、参加者の皆さまから、「神様が働きぶりを見ていたんだよ」と言っていただき、大変恐縮でしたが自ら選んだ優勝賞品のゴルフ測距器を有り難く頂戴しました。これで次回からアプローチの精度が上がると思います。その他にも別表の結果のとおり、準優勝、3位、5位、10位、BB賞、BM賞とドラコン、ニアピン、大波、小波、ベストグロスとたくさんの賞を分け合い、皆さま満足して頂けたようでした。

また、この日は会場の松山ゴルフ倶楽部では、オープンコンペが開催されており、そちらのコンペにも参加したほうが割引が効くという特別営業日でしたので、全員に同時参加していただいたところ、土木工学科昭和49年卒業の勝谷雄三さんが13位に入賞され、同じく土木工学科昭和45年卒業の砂田元さんが80位の飛び賞を獲得されたそうです。

表彰式終了後、しばらく談笑したのちに、翌日の総会の成功と5年後の再会を誓って解散しました。次回は今回の倍くらいに参加者を増やして、一層活気のある大会にしたいと思いますので、お誘いあわせのうえごぞってご参加いただきますようお願い申し上げます。

令和元年5月工業会80周年記念ゴルフ大会結果

順位	名 前	卒業学科・年	NETスコア
優勝	渡邊 政富	土木H2	74.4
2位	浜田 康孝	機械H8	75.4
3位	片上 敬	機械院S54	77.0
4位	砂田 元	土木S45	77.2
5位	藤井 英雄	電気S51	78.2
6位	大久保憲一	電気S57	80.2
7位	勝谷 雄三	土木S49	81.2（年長）
8位	谷 喜文	電気院S53	81.2
9位	森本 英二	土木S62	81.8
10位	武田 寿	機械S46	82.0
BB	井上 博喜	土木海洋院H12	82.4
BM	岡本 圭吾	土木海洋H7	88.2

個人の名誉のため、グロススコアの発表は控えさせていただきます（^^）



クラス会報告

電気工学科昭和39年卒クラス会

田中章博(電39)

毎年秋に、幹事(持ち回り)の出身地、居住地等で、開催している。直近の例では、降順に、米子市、高松市、松山市、倉敷市、大津市、東京等である。今回は、平成30年9月26日に、長野県長野市で開催された。

筆者(幹事)の心配は、続発する台風であったが、辛くも1日の違いで通過し、幸いであった。

開催地

長野県は、県歌「信濃の国」に歌われているが、十州(現在の富山、新潟、群馬、埼玉、山梨、静岡、愛知、岐阜の8県)に境連ぬる、南北に大きい国。長野市は、この北部に位置し、善光寺で有名。

埼玉県在住の筆者が、この地を開催地としたのは60歳代の8年間、単身赴任をした土地勘と山紫水明、風光明媚(媚)、温泉、旧跡等々、観光に輝いている為である。

イベント

懇親会は、善光寺のすぐ近くの、眺望の良い、市内でも1、2を競う高級料亭(萬佳亭)。

ゴルフは、市内から車で約30分、戸隠高原(海拔

約千メートル)に有る名門コース(長野C.C)。前夜祭は、前泊者(ゴルフ、観光組)での飲み会。

観光は、各自の自由とし、周辺の名所旧跡を紹介。善光寺は別格として、川中島古戦場、真田六文銭の松代城下、戸隠神社、北斎・栗の小布施、妙高・黒姫高原、野尻湖、戸倉・湯田中・渋・温泉等々。

参加者

会員は、39年卒者等(正規年齢：暦年で満77歳)で、45名(内物故者：12名)となっている。

今回は、多くの会員の参加を意図し、観光を兼ねたご夫婦同伴での参加を呼びかけた結果、参加人数は16名とご夫人3名の計19名となった。

不参加者の理由は、ご自身の体調、奥様の体調不良が主であったが、6名からの音信が無かった。

居住地は、北海道、埼玉、神奈川、滋賀、大阪、兵庫、岡山、香川、愛媛の道府県で、飛行機、列車は当然として、香川、岡山、埼玉からの車組もいた。

前夜祭とゴルフ

今回は、ゴルフ組(磯野、川井、中川史郎・同夫人、山本、田中)に、観光組の前泊者4名を加え、10



集合写真

後列左から、八尾 磯野 本田 田中 中川史郎 中川新一 福山 山本 神谷 丸岡 高野 渡邊
前列左から、三好夫人 本田夫人 三好 中川史郎夫人 西 川井 岡崎

名となり、市内居酒屋で、極めて盛大(幹事として、明日が本番と念を押す羽目に)に行われた。

ゴルフは、新ペリ、レギュラーティ (6,389)

優勝：川井君 バスグロ：山本君 (97)

再会と懇親会

JR長野駅善光寺口に、夕方5時前に集合、料亭の送迎バスで、途中、善光寺の外周を一周する、約

15分のショートトリップを経て会場へ。

参加者の大方は、例年の参加で、今回、ご参加頂いた、ご夫人組(中川、本田、三好)を加え、約3時間、物故者への黙禱に始まり、近況報告、美味しい地酒と初秋の信州路の味覚(松茸など)を楽しみ、宴会後、来年松山(幹事：渡邊健二、中川史郎)での再会を約し、送迎バスにて、各自のホテルへと帰途に就いた。

第15回電気工学科昭和40年卒クラス会

田中秀穂(電40)

昭和40年卒の電気工学科クラス会は還暦を過ぎたことを契機に琵琶湖畔の雄琴温泉にて第1回クラス会を実施しました。以来、毎年開催をしてきたところで、今年は第15回を迎えることを記念して平成31年4月1日～2日の2日間、新居浜にて開催しました。

我々には新居浜に特別な想いがあります。工学部が新居浜から松山に移転したのは昭和38年の夏であり、新居浜で最後の授業を受けたクラスです。我々の後輩は新居浜で授業を受けることはありませんでした。

クラス会はリーガロイヤルホテル新居浜で行いま

した。

このホテルは新居浜で唯一の本格的な高級ホテルでしたが、ホテルの用意したプログラム「同窓会プラン」を利用しましたので、プロジェクターの無料貸し出しなどのサービスがあり、また宴席および宿泊などがリーズナブルな料金で済みました。

出席者は井上、鶴籠、神原、重松、信田、上甲、須之内(共同幹事)、清家、仙波(純)、多賀、田中(共同幹事)、中筋、三好、鶴の各氏14名と松山からご来駕いただいた有吉弘先生の計15名でした。最近では出席者が漸減の傾向にありましたが、新居浜という思い出の地であるせいか出席者が増え、幹事とし





専門課程移行時の雄風寮（昭和37年10月）

愛大工学部の「雄風寮」（昭和37年）



新居浜高専の「雄風寮」（平成31年）

てはうれしく思っています。

宴席では各講座の卒業論文作成のための実験をしているところおよび雄風寮祭の仮装姿の写真をスライドで上映しましたので、学生時代の思い出に弾みがつき宴会が盛り上がりました。

宴席の後、宿泊する部屋にて定例化したミニ宴会が始まり夜遅くまで談笑しました。そして来年もクラス会を開催することとして、信田さんに幹事役をお願いしました。

翌日は別子銅山の端出場の遺跡を観光施設に整備したマイントピア別子地区、そして標高750mの東洋のマチュピチュと言われる別子銅山の採鉱本部・社宅・学校などの事業／生活用設備があった東平（とうなる）地区をガイド付きの観光バスで廻りました。この時期、ちょうど桜の満開と重なり、ホテルを出てから解散までの6時間の観光をたっぷり楽しむことが出来ました。

今回の新居浜でのクラス会に参加した人達のなかには懐かしい新居浜の街並みを期待した人がおられ

たようですが、卒業後半世紀を過ぎた新居浜はすっかり近代化され、ノスタルジアを楽しむことはできなかったかと思います。

クラス会を解散した後、少し時間があつたので新居浜高専のキャンパス周辺を散策しましたが、広々とした高専通りの開通があり、庄内町地区の田圃はアパートと住宅にすっかり埋め尽くされていました。

新居浜高専の構内にも入らせていただきましたが、そこで素晴らしい発見をしました。

我々の新居浜での生活は「雄風寮」を中心に暮らしをしてきましたが、あのキャンパスを引継いだ新居浜高専も学生寮を中心に暮らしているようで、その学生寮で一番古くて大きい寮の名前が「雄風寮」と名付けられていました。

松山では学生寮の名前は持田寮／御幸寮などと町の名前で呼ばれ、味気ない名前となっていました。新居浜では雄風寮の名前が引き継がれており、伝統となっていることに感動をしました。

工業化学科昭和41年卒業同期会

本 邑 喜代一（工化41）

平成から令和へ年号が変わりました。早いもので卒業して53年もの時間が経過しており今更ながら驚いています。我々の同期会の初期段階は近畿地方の同期生が連絡を取り合って集まる小規模の集まりから進展してすべての同期生に連絡を取り合うようになりました。今日までに1～2年間隔でかなりの回数を開催しております。同期生の居住する各地においてその地の同期生が幹事となりお世話をして

らっており、今回は兵庫県相生市、その前は静岡県浜名湖……と続いております。

今回は久しぶりに松山での開催となり、道後温泉の大和屋さんにお世話になりました。松山での実施が6年目ということもあり、東は茨城県日立市から西は長崎県佐世保市まで広範囲に18名もの参加を得ました。宴会の時間までに道後の湯につかり昔懐かしい道後温泉特有の湯の感覚を楽しんだ後、写真を



愛媛大学工業化学科 昭和41年卒 同期会 令和元年6月13日 於 大和屋本店

撮り宴会となりました。宴会ではいつものように各自の近況報告をしながら歓談し次回の開催地が奈良方面と決まりました。皆が体力の保持に努め、今回

は都合が悪くて参加できなかった方も含めて次回開催に多くの旧友とお会いして互いの元気を再確認できることを楽しみにしております。

機械工学科昭和42年卒同期会報告 ～卒業後51年目の再会～

越 智 保 雄 (機42)

昨年11月9日に卒業以来51年目にして初めての同期会を松山で開催しました。関東地区にいる廣瀬君、大城君、白井君及び私と工業会関西支部長でもある渡辺君の5名で相談して、手分けして調査を進めました。その結果、同期の卒業者数46名中、39名

の連絡先が判明しました。そこで、昨年7月初めに案内文を作成し同期生39名に工業会本部より案内状の印刷と発送をして頂きました。参加者15名以上を目標に返信を待った結果、17名が参加してくれることになりました。



写真1. 工学部本館前にて



写真2. 懇親会会場にて

11月9日当日はまず愛大工学部の見学を計画しまして15時に工学部本館会議室に集合しました。旧知の高橋学先生（社会共創学部）にお世話頂き、主任教授の中原先生から工学部の現状と2019年度から始まる新工学部の説明を伺い、その後、熱工学研究室（中原先生）、材料力学研究室（黄木先生）、流体力学研究室（岩本先生）の見学とそれぞれの研究内容の説明を伺いました。我々の学生時代から考えると研究内容も設備も隔世の感が有りました。

つぎに、懇親会会場である道後「にぎたつ会館」に移動しました。会場では名札入れに卒業アルバムの写真を名前と共に張っていましたので、当時の写真と比べて何となく面影のある人、全く分からない人とそれぞれで51年という時の長さを実感していました。懇親会は18時から廣瀬君の司会進行で始まり、まず、物故者3名への黙とうをささげた後、三木君の乾杯の音頭で始まりました。楽しい食事とそれぞれのテーブルでの会話が始まり、学生時代の懐かしい思い出に花が咲き、また、各自からの近況や

学生時代の思い出をそれぞれ話してもらいました。懇親会が盛り上がったところで、宮崎君から提案のあった学生時代に歌った、愛大校歌、機械科音頭等を全員で歌いました。今回は卒業以来初めての同期会でしたが、渡辺君からの一次会の締めの挨拶があり、同期に関西地区在住の方が多くいることから次回は2年後に関西地区で開催することを提案して20時半ごろに懇親会を終了しました。

その後、別会場で二次会に移りました。二次会参加者は10名ほどになりましたが、さらに皆さんの現況や学生時代の思い出話でおおいに盛り上がりました。

最後に今回の同期会に参加してくれた17名の方々の氏名を記して報告としたいと思います。大内智次、大城重信、岡田弘志、越智保雄、川添征夫、熊喜久雄、坂田(大賀)修之、白井享一、富田美喜雄、長井信正、廣瀬正敏、二神勝利、三木常良、美保皓一、宮崎武英、村上守正、渡辺武晴、以上の17名です。

生産機械工学科昭和44年卒業同級会

井 上 要 (生機44)

平成29年11月19日(日)・20日(月)松山市道後温泉「にぎたつ会館」で第6回同級会を開催しました。会員45名の内、17名と介添の夫人1名の参加でした。受付・入浴は15時から可能で、18時から宴会の計画でした。日程は9月末・えひめ国体、10月末・障害者スポーツ大会があり、日時・場所の選定に幹事が苦労された結果です。

出席予定者の全員集合により、18時から写真撮影をして、お料理とお酒を頂きながら、各自の近況報告を順に全員が行い、後は隣席者との会話も続きました。今年も出席者は例年程でしたが、会場が広く席間隔に余裕があり、くつろいで自由に移動しながら話し合う姿が見られました。

今年は健康・病歴の話題が多く紹介され、お互い

の年齢を感じつつ、無理をせず長生きをするよう心掛け実行している等お互いをいたわり合うような話し振りの方々が目立ちました。

写真担当の小川君と中西君は、全員の写真撮影から着席している会員個人や、臨席数人の集合での写真撮影に、広い会場を回りつつ大活躍で、ご苦労様でした。

宴会終了後は別室へ移動しての座談会が23時まで続きました。ここでは学生時代の話や校歌、学生寮歌を数人が合唱するなど、心は若人の頃に楽しんでいました。

翌朝9時半集合のゴルフ愛好家達8名は、奥道後GCへ出発し、それぞれの目標に向かって楽しんでやうです。日頃の練習、試合の成果が表れ、ゴルフ幹事が上位であったと報告がありました。

今回の主幹事は四国地区の篠崎君、ゴルフ幹事は金村君、他の幹事は関東・中部地区の森脇君、竹久(旧姓 川崎)君、関西地区の益野君、胡君、中国・九州地区の島津君、中西君でその奉仕に感謝します。

次回の開催地は、四国地区の高知県で、幹事として鈴木君、他の幹事は今回と同じ諸君の予定です。詳細は平成30年10月末頃開催予定として幹事から連



絡を頂きますので、多数の参加をお願いします。

出席者：和泉、井上、後、宇都宮、胡、小川、金村、篠崎、島津、鈴木、蟬谷、月原、寺尾、中田、中西、森脇、横山

平成30年2月24日(土)正午過ぎ、幹事から会員の訃報連絡を受けましたので追記します。

丹原将君が2月23日(金)深夜に滋賀県内病院で数年間の病氣療養中にご逝去されたとの報告がありました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



昭和44年度 生産機械工学科 卒業生同窓会 2017年11月19日

冶金参期会（冶金昭和45，46，47卒）広島報告

貞広 公良・三好 良一（冶46）

今年は広島で、冶金参期会（昭和45年・46年・47年卒）を7月2日～3日に開催しました。ご参加された方は、西田先生、以下順不同、池上さん、稲葉

さん、岡さん、岡本正治さん、久保洋さん、久保武彦さん、久保和義さん、源田さん、貞広さん、田中和成さん、藤田さん、前田和彦さん、村上さん、加

藤さん（ペア）、三好の17名でした。

7月2日14時に原爆ドーム前に集合し、資料館の見学をしました。原爆の悲惨な資料を見ることができました。見学後宿泊先のホテルへ路面電車で移動し、夕食後、タクシーで流川通りのスナックへ！ママの梅花さん、年寄りを相手に頑張って頂きました。その後ホテルに帰りましたが、まだ飲み足りない人は広島駅近くの居酒屋へ。

7月3日は朝食後、タクシーで原爆ドームの近くの栈橋から船に乗り、海路宮島へ！川の水は増えて橋の下は擦れ擦れで通過。こんな航路で宮島に行けるとは。流石幹事の貞広さん、良くご存じですね。港について徒歩で宮島へ。途中は野生の鹿が観光

客とあちらこちらで遊んでいます。奈良とは少し違う雰囲気です。宮島も西洋系の外国からのお客様で一杯でした。宮島では、日本の女性と西洋系の外国の男性との結婚式が行われていました。帰りはJRのフェリーで宮島口まで行き、コーラルホテルで昼食後、JRで広島駅まで移動して解散しました。

参り会一同



生産機械工学科（S42年入学，S46年卒業）同期会

小河内一雄・細田 耕司（生機46）

「令和」に改元された最初の月である5月に、第6回の同期会を東京で開催しました。

この10年で、最初の「松山」から始まり、「京都」、「広島」、「松山（内子）」、「香川（琴平）」と2年毎に集まってきました。

1日目の5月14日(火)は、夕方に宿泊場所である「東京海員会館」（中央区晴海3丁目）に15名が集合。夜は、東京湾から隅田川を屋形船でクルージング。

屋形船は貸切のため、揚げたての「天ぷら料理」などを楽しみながらの宴会、程よく酔ったところで、カラオケも楽しみました。

隅田川周辺での江戸時代の歴史について、小河内が作成した資料をもとに勉強。

3時間のクルージングを楽しみ、ホテルに戻って、二次会でのひとときを過ごしました。

翌5月15日(水)は、はとバスの「スカイツリー半日コース」を利用して、靖国神社と東京スカイツリーを巡りました。天気は予報に反して晴れ間が出て、スカイツリーでは、地上350mの展望台から、東京タワー、新宿のビル群など、360度の景色を楽しみました。富士山までは見えなかったのですが、素晴らしかったです。

東京駅の丸の内側に戻り、東京駅を背景にして、集合写真を撮り、解散しました。

今回の同期会開催に当たり、首都圏にいるメン



屋形船の中での集合写真

後列左から：藤井，山本，長滝，堀田，安藤，坂越，橋本（一），小河内，高宮

前列左から：池松，林，細田，久米，御堂丸，植木
看板用の文字は、坂越君の筆によるものです。

バー（安藤，小河内，坂越，長滝，藤井，細田，堀田）が何度か集まって、役割分担も行いながら進めました。無事に終わることができて大変良かったです。遠路から参加いただいた皆さん、有難うございました。

今後の同期会は、幹事の方に負担を極力かけないようにと、思い立った時に、参加できる人が集まることとし、当面、「京都」、その次は「広島（呉）」と、元気に集まることができればということになりました。



東京駅に戻り、解散前に集合写真



靖国神社



東京スカイツリー，地上350 mからの眺め

第1回「生機46会（昭和46年生産機械工学科入学者の会）」報告

喜多岡 洋 一（生機50）

日時 2018年9月19日(水)～20日(木)
集合 19日13時 愛大正門前，木村正樹教授の案内で工学部，愛大ミュージアム等の見学
移動後 道後温泉「飛鳥乃湯泉」入浴，懇親会「にぎたつ会館」(18～21時)，2次会，宿泊
卒業後初めての同期会を計画し，46年入学者41名中住所の分かる34名に案内，参加者16名，先生4名をご招待し，合計20名で素晴らしい会を開催することができました。

ほとんどが44年ぶりで，姿，かたち，声も随分変

わっており，最初の対面では名前が出ない，空港での擦れ違いや，名乗っても20代の顔に一致しないなどハプニングもありましたが，大学見学，温泉，懇親会と時間を共有するにつれ，口調やしぐさに昔の面影を発見し，青春時代にタイムスリップ，懐かしく和やかな時間があつという間に過ぎました。

懇親会では，見山君の名司会で，自己紹介，近況報告，松山の今昔プレゼン（清水君作），栗原君のギターに合わせて合唱，記録写真は河野君とそれぞれの得意分野を発揮，先生方の激励の言葉をいただ



後列左から 濱田，見山，丸本，矢野修，織田(旧矢野)，横田，山本(旧横道)
中列左から 清原，栗原，河野，清水，徳原，中岡
前列左から 内富，垣橋，佃先生，荻山先生，爰島先生，一柳先生，喜多岡

き、気分は大学生の時間を満喫しました。

2日目はあいにくの雨でしたが、予定通りゴルフ班は早朝に出発、市内散策班は坂の上の雲ミュージアムを見学後、南予の鯛めしを賞味し名残を惜しみながら解散しました。

「生機46会」会員へお知らせです。

この会は、4年に1回、9月中旬（第2回は2022

年9月14日(水)～15日(木)に、また、近隣の方々に参加いただく「生機46いよ会」を毎年、3月中旬、今回は2020年3月21日(土)に開催予定です。多くの方の参加を待っています。

なお、秋本君、児玉敏弘君、増田君、森君、森野君、山本君の住所の分かる方は喜多岡（089-924-5804）までお知らせください。

機械・生産機械工学科昭和48年入学又は52年卒業クラス会

木村正樹 (院機54)

2018年10月20日(土)に平成30年の機械・生産機械工学科昭和48年入学又は52年卒業者のクラス会を松山全日空ホテルで開催しました。19名が集まりました。世話係は河井勝吉さんです。大阪近辺の方と毎年交流を続けており今回も中心となって世話をさせていただきました。

当日は14:00から愛媛大学の構内見学会を行いました。工学部の元本館（現在総合研究棟2）の研究室や現在の工学部本館や5号館内の研究室やミュージアムを見学しました。大学での研究内容をほとんど知らないで、皆さん興味深く見て回られました。昆虫標本の質と量には特に驚いていました。興味がある展示物は「無料だし翌日もゆっくりと見に来たい」、と感心していました。また地球深部ダイナミ

クス研究センターのナノ多結晶ダイヤモンドの合成プレス装置や温度圧力制御実験や準備組立の様子を見て回りました。生協の食堂はメニューと価格に関心が向いていました。

さらに松山城に登って学生時代のクラブ活動の練習の話等もしました。思っていた以上に登山道の勾配が急なことや年月が経って松山市はビルが増えていたことに驚いていました。懇親会では自己紹介をし、話題は定年退職したり、継続雇用や新しい職場の様子でした。子供や家族の話になりました。病気になったが治療がうまくいったと、みんな健康で元気いっぱい、懐かしい話でたいへん賑やかでした。牛谷恵史さんに写真を撮っていただき大変お世話になりました。



平成31年3月，第17回「えざわ会」

岩丸 純 芳 (鉦37)

神田神保町の学士会館は野球発祥記念碑のある旧帝大の会館です。江澤先生は平成27年1月に99歳で逝去されましたが、先生がここの会員であったお蔭でその後もここで花見の季節に「えざわ会」を開催しています。料理は贅沢な洋食のコース料理とビールの外に高級ワインとお酒が出ます。

「えざわ会」の役員は会長の東京練馬区在住首藤君（鉦山S37年卒），会計のさいたま市在住神田君（鉦山S39年卒），幹事の我孫子市在住中村君（鉦山S39年卒）の三人が幹事団で，その他の私達数人は自発的な応援団です。

中村幹事は「えざわ会」の開催案内を関東だけでなく松山，広島，大阪，宮城へ，採鉦25年卒から土木44年卒の方々まで33通を出しています。今年は常連のメンバーがこぞって欠席したので幹事の中村君が一人で大奮闘していました。司会者も原則は中村

君です。

欠席者の中で八千代市在住宮井君（鉦山S37年卒）は夕方の靖国神社参拝とその後の二次会に合流してくれました。

欠席者で文化勲章受章者の四街道市在住白髭君（鉦山S37年卒）は前日になって腰痛の欠席届が来ました。

欠席されている我孫子市在住豊田先輩（採鉦25年卒）について同じ我孫子市で「平成会」と言う地域活動をしている中村幹事に聞いたところ，先輩は足が不自由だがお元気で市内の講演会でトンネルの工法などの話をされていたとの事でした。

「えざわ会」は出席者の自慢話がメインテーマとなっています。今では元気で過ごすだけでも自慢です。

卒年順に話の概要を記憶の範囲で書いてみますが



多少の勘違いと失礼はご容赦下さい。

狛江市在住の常廣先輩（鉦山S34年卒）はコンプレッサーの設計技師の経験を基に、技術士、NEDO、大学の先生などをされました。その後は子供達へピアノを教え、今はご自身でのバイオリンの演奏を楽しんでおられます。夕方の皇居千鳥ヶ淵花見散策までは一緒しました。

大阪枚方市から来て頂いた伴先輩（鉦山S34年卒）と大学時代の五十嵐先生との交流の話は感動的です。その後は自衛隊に入隊した話も面白いのですが、そこで身につけた技術だけでなく交流関係も活

かして土木建設関係の企業に参画して業績向上に貢献し、現在も現役として行動されています。経験豊富で面白い話が次から次と出て来ます。皆さんには話していませんでしたが前日の夕食に中村幹事と一緒に呼んで頂きました。

東京練馬区在住の林先輩（鉦山S36年卒）は川之江高校から松木先生にお世話頂き、松山下で下宿したのが陸軍士官学校出の優秀な人物のお宅で、そのご主人が「林君、偉くなろうと思うなよ」と言われたのが今に残っていると言う話でした。林先輩は四阪島や小坂などの精錬所を経験され、その後は役員か関連の社長かをされていたと思います。話は全国の観光名所に広がって行ったので時間切れにさせていただきました。

私、岩丸（鉦山S37年卒）は宮城県七ヶ浜町在住、この17回をすべて出席しているのが自慢です。高橋先生から「畑違いは苦労するぞ」と言われながら鉄鋼会社に勤め最後の転勤先が宮城県でした。東北の復興は相当に進んでいます。土建工事でその景色は日一日と変化しています。時間を作って是非東北へお出掛け下さい。私は何かと病気の話が多いのですが、ダンス、卓球、最近始めたキーボードのピアノ



などの話もあります。今回は人数分の楽譜を準備して来たので江澤先生を偲んでハーモニカでアリランなどを合奏しました。

春日部市在住の田中君（鉦山S38年卒）はスクワットや腕立て伏せで健康管理をしているそうで、ピンピンコロリの対策の話がありました。例えば本籍を変えるのも意外に簡単ではないよとの事でした。また、テレビのプレバト（松山の夏井先生や梅沢富美男）を見たので俳句に挑戦したいと思っているそうです。

つくば市在住の藤原君（鉦山S38年卒）は26歳の時に陶芸に出会って、現在はつくば市に桜窯と言う工房を持って、ご子息喜一郎氏と共に陶芸教室や各地での展示会をされています。朝は4時に起きる規則正しい生活だそうです。原料は愛媛から取り寄せているそうです。ヨーロッパなどの海外研修経験も豊富で、開口一番に英語の挨拶がありました。今回の話はキーワードにすると大阪の中華、焼き物、人生相談、イラストレーター、水泳2千メートル等と幅広いです。「桜窯、つくば市」で検索してみましたが、藤原正夫君と喜一郎氏の気品溢れる綺麗な作品が見られました。飲みすぎたと言いながらも千鳥ヶ淵までは一緒に散策しました。

幹事中村君（鉦山S39年卒）は開会に先立ち「え

ざわ会」関係者でここ数年に亡くなった方々を偲んで黙禱をと声を掛け、全員で黙禱をしました。中村君は我孫子市の地域活動「平成会」を豊田先輩と共に取り組んで毎月第2水曜日に活動しており、私も講演会を2回ほど聞きに行った事がありますが、どなたでもご参加下さいとの事です。

「えざわ会」の幹事としては開催の案内、予算、土木海洋会への報告、翌年の開催予約などの面倒なサイクルを廻してくれ、只々感謝です。皇居千鳥ヶ淵散策から夕方の靖国神社参拝そして最後の中華食堂の二次会まで付き合ってくれました。

成田市在住梁田君（土木S42年卒）は千葉県のパブリックサービスとしての土木技師でしたので土建業界との交流が深く世間が良く見えています。彼も皇居千鳥ヶ淵から靖国神社の桜から中華食堂の二次会まで付き合ってくれ、終わり頃の座の仕切り方は同席した論客の林先輩や宮井君も太刀打ち出来ない腕前を發揮していました。

数年前には三次会のカラオケで一緒に上野に行った事もありましたが、今回は同期の河野、篠原、大門各氏が欠席された事を残念がっていました。

来年の「えざわ会」は令和2年3月29日(日)12時に計画されています。どなたでも歓迎しますので是非ご参加下さい。

新時代に向けて

代表 武田 慧 悟 (機械工学科3回生)

2002年に創られた二宮翔会は、今年で創部17年目を迎えました。私たちは八幡浜市出身の偉人、二宮忠八が作った「カラス型飛行機」を人力飛行機として現代に蘇らせるべく日々活動を行っております。今年も新入生を14名獲得でき、部員は工学部を中心とする総勢36名となりました。

昨年は2015年以来3年ぶりに鳥人間コンテストへ出場することができました。前回出場した時に比べ、翼桁、胴体フレームを一新し軽量化した機体で大会に挑みました。しかし、当日に台風が会場を直撃し大会は中止、琵琶湖で機体を飛ばすことは叶いませんでした。これまでクラウドファンディングを始め、応援していただいた皆様にフライトをお見せすることができず、非常に申し訳ない結果となってしまいました。

今年も鳥人間コンテスト出場、さらにチーム記録の更新を目標に、運用しやすく、安定した飛行の可能な機体の製作を進めていきました。しかし、書類審査の結果、第42回鳥人間コンテストへの出場権を得ることはできませんでした。昨年、飛ばす事の出来なかった思いを胸に出場を目指していただけにとっても残念でした。しかし、ここで止まるわけにはい

きません。チームとしての目標を、創部以来達成できていなかった笠岡ふれあい空港での飛び切りに切り替え、チームの技術向上を図ることに決めました。昨年の機体にあった細かい問題点を改善し、4月末に今年の機体が完成しました。その後、5、6月に愛媛大学のグラウンドでテストフライトを3回行い、機体を安定して浮上させることができるようになりました。現在、笠岡ふれあい空港でのテストフライトに向けて、最後の機体の調整を行っています。7月に一度予定していましたが天候不順により、8月中旬に延期しました。今回は良いコンディションで迎えられようように、ただただ祈るのみです。テストフライトの様子は、随時YouTubeに公開していきますのでご覧になっていただくと幸いです。

今後は、今年の機体で得た結果をもとにより長く飛ぶことのできる機体を目指し製作を進めていきます。最終的には鳥人間コンテストでのチーム記録の更新を目標としています。応援して下さる皆様のご期待に添えますよう、精一杯努力して参りますので、今後とも二宮翔会をよろしくお願い致します。





愛媛大学工業会ホームページ
<http://www.eu-kogyokai.jp/>

表紙写真／編集後記

本号の表紙を飾っているのは瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道）来島海峡大橋です。しまなみ海道は本年5月に開通20周年を迎えました。これを記念して各地でイベントが開催されています。また、サイクリングロードとしての人気も高く、国際イベントも開催されています。

本年愛媛大学は開学70周年を迎えます。工学部は旧制時代から数えて創立80周年を迎えました。また、工学部は改組により工学科1学科体制がスタートし、4月に第1期生が入学しております。編集委員会企画としては、昨年および本年に開所された、工学部附属船舶海洋工学センターおよび同高機能材料センターを取り上げました。両センターはこれまでの工学部の特色ある教育研究活動を受け継ぎ、学生への専門教育のみならず、地域産業の発展に貢献することを期待されております。卒業生の皆様も興味をお持ちのことと存じます。

本誌はこれからも同窓生の皆様のための記事を掲載していきますので、クラス会報告などどうかお気軽にご寄稿ください。

なお、公式 Facebook も立ち上げました。ホームページからお越しください。また、メールアドレスが変わります。新アドレスは kogyokai@eu-kogyokai.jp です。

令和元年9月

*表紙写真提供：工学部等技術部 正岡 孝氏

愛媛大学工業会誌第33号編集委員

木下 尚樹, 藤森 祥文, 山本 修嗣, 平山 和子